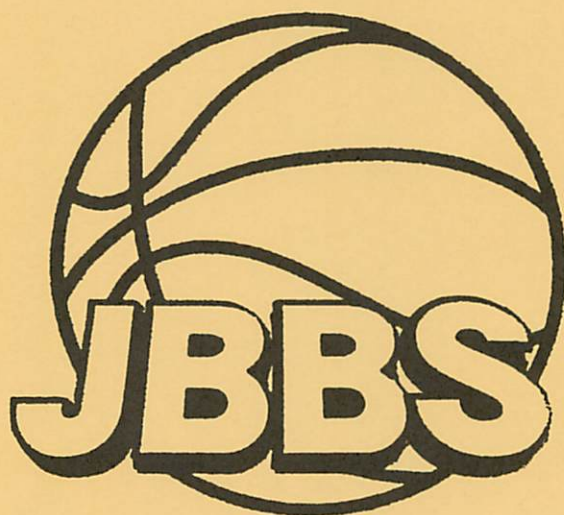


バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:34



2007年7月

NPO法人 日本バスケットボール振興会

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレイヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

本大会唯一の公式試合球

BGL7
GL7 国際公認球 検定球
貼り・天然皮革、7号球



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川5丁目5-7

目 次

○ F I B Aアジア女子選手権大会	3
○ F I B Aアジア男子選手権 I N徳島	7
○ 日本代表チームオリンピック史	歴史部 10
○ 日本協会の紛糾と混乱	16
○ N P O法人として活動開始	18
○ 会員だより	
バスケットとの出会い	宮田 奎治 19
ご挨拶	広瀬 直子 21
○ 日本バスケットボール協会競技日程	22
○ インターハイ組合せ	23
○ 訃報	
川本 禮治郎さんを悼む	中瀬 達雄 25
バスケットをこよなく愛した川本さん	小澤 正博 26
○ 事務局だより	28
○ プラザ こぼればなし	29

F I B Aアジア女子選手権大会

兼北京オリンピック予選 健闘するも第3位

[編集部]

6月3日から10日まで韓国仁川で開催された第22回F I B Aアジア女子選手権大会で、日本代表チームは予選リーグで中国を破る健闘ぶりをみせたが、決勝トーナメントの結果第3位となって北京オリンピック出場の切符を手にすることはできなかった。

しかしながら3位決定戦でチャイニーズタイペイを下し、来年開催されるオリンピック世界予選へ出場できる資格を勝ち取った。世界予選は来年の7月、ヨーロッパ4、アメリカ3、アジア2、アフリカ2、オセアニア1の合計12チームが参加して、残された3つのオリンピック出場枠を争う。

[試合経過]

6月3日 予選リーグ1回戦

日本	○	$\begin{pmatrix} 20-22 \\ 19-17 \\ 17-14 \\ 16-14 \end{pmatrix}$	●	中国
72			67	

第1ピリオド、日本はセンター山田のゴール下シュートを皮切りに、三谷、榊原のシュートなどで14-4と10点のリードを奪う。しかし残り3分からミスやファウルが出て残り1分に18-19と逆転される。その直後にガード大神がジャンプシュートを決めて逆転するも、終了間際に中国のシュートが入り20-22の2点ビハインドで終了。

第2ピリオド、開始早々山田のインサイドシュートで同点にし、その後の集中的な攻撃で1分過ぎには27-22とリードを広げた。しかし中国もシュートが決まり出し、すぐ29-29の同点にされる。その後日本はまたもやファウルの連発で中国にフリースローを許し一時はリードされたが、大神、諏訪、榊原のシュートで追いつき39-39で前半を終えた。

第3ピリオド、やはり開始早々に山田がゴール下で強みを発揮、さらに大神や渡辺のシュートなどで5分には54-41とリードを広げた。ところが終盤ファウルやターンオーバーなどで得点が止まり、逆に中国に追い上げられて56-53の3点リードでこのピリオドを終わる。

第4ピリオド、日本は内海、山田、三谷らのシュートで8点までリードを広げる。中国のタイムアウトの後、拮抗した試合展開となり約3分間両チームとも無得点、その後大神がインターセプトから速攻を決め、さらに山田、大神がダメ押し得点し日本は開幕戦で勝利を飾った。中国に勝利したのは2001年に開催された東アジア競技大会以来6年ぶりのことである。

6月4日 予選リーグ2回戦

日本	○	$\begin{pmatrix} 26-9 \\ 32-10 \\ 23-11 \\ 23-14 \end{pmatrix}$	●	タイ
104			44	

第1ピリオド、日本は渡辺、三谷らのシュートで徐々に点差を広げる。タイは果敢にマンツーマンディフェンスを仕掛けてくるが日本は落ち着いて攻めて、渡辺、榊原らのシュートで大量リードを奪う。終盤日本は選手を若手に切り替えたが、得点が止まることなく26-9で終わる。

第2ピリオド、早々から岩村の3Pシュート、矢代のジャンプシュートなどで更にリードを広げる一方、ディフェンスで相手シュートを抑え、終盤には磯山、池田らがインターセプトから速攻を決めて17連続得点を奪い、58-19で前半を終了。

第3ピリオド、最初のうちはやや重苦しい展開だったが、榊原、大神、山田のシュートが冴えて更に加点し81-30の大量リード。

第4ピリオド、開始直後タイに連続得点を許すもディフェンスを建て直し、吉田がボールを奪って速攻、池田、矢代がオフenseスリバウンドから得点するなど、終盤まで手を緩めないで攻め続け、最後は104-44で勝利して開幕2連勝となった。

6月5日 予選リーグ3回戦

日本	○	$\begin{pmatrix} 22-11 \\ 10-16 \\ 19-9 \\ 16-22 \end{pmatrix}$	●	チャイニーズ・タイペイ
67			58	

第1ピリオド、開始から一進一退の攻防となり、4分で7-7の同点。日本はそれから山田の連続得点で流れに乗り、榊原、三谷が速い展開から確実にシュートを決めて15連続得点し、22-11の11点リードで終わる。

第2ピリオド、大神のドライブから得たフリースローや、榊原の3Pなどで4分には30-15とリードを広げる。しかし日本はミスやシュートの失敗から4分間ゴールすることができず、相手に10連続得点されて32-27と点差を詰められて前半終了。

第3ピリオド、開始から両チームとも得点が入らなかったが、榊原の3Pシュートで均衡を破る。さらに大神のシュートやパスカット、三谷のドライブインなどで加点しながら相手のオフenseを無得点に抑え、39-27とリードを広げる。その後も要所でオフenseスリバウンドを頑張り、榊原、内海の3Pシュート、矢代、榊原のコンビなどでさらに加点し、51-36で最終ピリオドへ。

第4ピリオド、日本はミスを連発してシュートに持ちこめず、7分に大神が痛恨の5ファウル退場となってしまった。チャイニーズ・タイペイはこれにつけこみ怒涛の攻撃で11連続得点し差を詰める。残り1分日本は62-57になったところでタイムアウト。その後、日本は吉田がうまくボールをキープしてフリースローを得、矢代が落ち着いてゴール下シュートを決め65-57となる。終了直前には諏訪が駄目押しの得点をして67-58で勝利、2002年世界選手権以来8連敗中のチャイニーズ・タイペイに一矢を報い、日本は予選リーグ3連勝。

6月6日 予選リーグ4回戦

日本	●	$\begin{pmatrix} 14-20 \\ 14-19 \\ 17-20 \\ 23-31 \end{pmatrix}$	○	韓国
68			90	

第1ピリオド、日本が先行した後韓国に立て続けに3Pを決められ、開始4分で2-10とリードされる。終盤韓国のシュートが落ちたところで三谷のゴール下、渡辺の外角が決ま

って4点差まで追いつけたが、終了間際、韓国のシュートが決まり14-20の劣勢で終了。

第2ピリオド、韓国は日本のディフェンスの緩みを巧みに利用して開始3分に27-16と日本を引き離す。その後矢代がゴール下シュートを2本決めたが、ディフェンスで韓国の高確率のシュートを止めることができない。日本は終了間際に大神がジャンプシュートを決めたが結局28-39と11点の差をつけられて前半を終了する。

第3ピリオド、序盤ミスが出て流れに乗れない日本に対し韓国は連続得点して28-43の15点差となる。その後日本は榊原のオフェンスリバウンドやパスカットなどでチャンスを作り諏訪が連続ゴール下シュートを決めて10点差に追いつける。しかし韓国はゴール下やリバウンドで強さを見せ、残り2分には37-55と18点の差がついた。終盤日本は諏訪のバスケットカウントなどで追いつけたが45-59でこのピリオドを終わる。

第4ピリオド開始早々韓国は連続得点、日本は榊原、内海が必死で対抗したが点差は縮まらない。日本は中盤から若手に切り替え、磯山らが果敢に攻め込んだがなかなか得点できず、逆に韓国は外角シュートが決まって終わってみれば68-90という22点の差をつけられてしまった。

6月7日 予選リーグ5回戦

日本	○	24-10	● マレーシア
		30-2	
		35-16	
		28-4	
117			32

第1ピリオド、日本は若干出足が鈍かったがリバウンドやスティールから速いテンポでシュートまで持ち込み、24-10で終了。

第2ピリオドに入ると日本は相手のシュートを阻止し、三谷、諏訪などの得点で16連続得点してマレーシアを引き離す。残り2分を過ぎてから日本は渡辺、内海がそれぞれ2本4連続3Pを決めてマレーシアを圧倒。54-12で前半を終わる。

第3ピリオド、日本がボールを支配し早いテンポのオフェンスから榊原、内海がシュートを決める。マレーシアは少ないチャンスをものにしようと試みるが、まともにシュートを打つことができない。日本は終始高確率な3Pシュートと速攻で得点し89-28の61点差でこのピリオドを終わる。

第4ピリオド、日本はリバウンドを完全に支配し、そこからハイペースなオフェンスを展開。磯山、岩村らが次々とシュートを決める。マレーシアは残り2分まで無得点、最後まで攻めきった日本は全員出場、全員得点で117-32と圧勝した。

予選リーグを終わって日本は4勝1敗となり第2位で決勝トーナメント進出が決まったが、中国が3位になったため、決勝トーナメントの1回戦は日本対中国、韓国対チャイニーズ・タイペイの組合せとなった。

6月9日 決勝トーナメント1回戦

日本	●	13-16	○ 中国
		9-15	
		14-28	
		26-15	
62			74

日本は決勝進出をかけて中国と戦ったが、序盤硬くなったせいかいいリズムでシュートに持ち込むことができないで得点が伸び悩み、終盤追いつけたが決勝進出を逃がした。

第1ピリオド、立ち上がり日本はシュートが決まらず開始3分で2－6とリードを許す。その後山田、大神のシュートで同点に追いついたが、中国のドライブインやジャンプシュートを連続して決められ13－16の3点ビハインドで終わる。

第2ピリオド、序盤山田のシュートや三谷の3Pが決まって18－20の2点差まで追いつけたが、その後はいいタイミングでシュートまで持ち込めなく得点が伸びない。終盤中国が確率良くシュートを決めるのに対し、日本は5分間無得点に抑えられ22－31で前半を終了する。

第3ピリオド、追いつきたい日本にファウルやミスが出て流れに乗れず、開始6分で28－46と更に点差をつけられた。残り4分から諏訪、内海、吉田らの若手が頑張つて点差を詰めるが、中国も終盤に連続得点し結局36－59の23点差となってしまった。

第4ピリオド、立ち上がりから積極的なディフェンスで内海が連続得点、その後も三谷、矢代の得点で追いつける。終了間際にも内海が気を吐いてシュートを決めるが、第3ピリオドまでで差がついた23点は大きく、中国に追いつくことはできずに3位決定戦へ回る事となった。

6月10日 3位決定戦

日本	○	$\begin{pmatrix} 22-13 \\ 18-17 \\ 16-17 \\ 17-23 \end{pmatrix}$	●	チャイニーズ・タイペイ
73			70	

第1ピリオド、開始早々三谷の3Pシュートが連続して決まって好発進した日本は、相手の得点を4点に抑えて開始5分には12－4とリードする。中盤以降もスティールからのファーストブレイクを連発し18－6とリード、終盤相手に3Pを決められるも22－13の9点差で終了。

第2ピリオド、立ち上がりから山田を基点としたオフェンスで加点し、速い展開から池田や内海のシュートで38－24と差をひらく。終了間際相手に連続得点を許すも40－30の10点差で前半を終わる。

第3ピリオド、日本は必死のディフェンスで相手シュートを阻むが、オフェンスのリズムがうまくいかずお互いに得点が動かない。残り3分に矢代が速攻を決めて54－41の13点差にしたあたりからチャイニーズ・タイペイがドライブインなどで巻き返し、56－47の9点差で最終ピリオドへ。

第4ピリオド、相手の激しいディフェンスで日本はボールが回らなくなり、得点も止まって徐々に追いつけられる。とうとう残り3分になったところで66－65の1点差まで詰め寄られた。その直後吉田が強引にドライブインを決めて3点差にし、更に大神がジャンプシュートを決めて5点差にする。しかしすぐ相手にシュートを決められ3点差、残り30秒で大神がフリースローを1本決めて4点差。その後相手にオフェンスリバウンドを奪われたが三谷がファウルで止めて相手のフリースロー。1本目が入り2本目が落ちたところで再びリバウンドを奪われてゴール下を決められ1点差になった時は残り4秒。スローインの後大神がキープしようとしたところファウルゲームとされ残り1.8秒。ここで大神が落ち着いてフリースローを2本決め73－70で勝利し、2大会ぶりのメダル獲得となった。

メダル獲得とはなったものの、日本は北京オリンピック出場の切符を勝ち取ることはできず、来年開催される世界予選にオリンピック出場をかける事となった。

F I B A アジア男子選手権 I N 徳島

兼北京オリンピック予選開幕せまる

[編集部]

第24回F I B Aアジア男子バスケットボール選手権大会(北京オリンピックアジア予選)は、7月28日から8月5日まで16チームが参加して徳島市で開催される。

日本代表チームはオリンピック出場への切符を勝ち取るべく、6月28日からヨーロッパに遠征し、29日からリトアニアで強化試合を行なった。リトアニアの次はドイツに回り現地チームと対戦して更なる強化を図る。

オリンピックの出場権は女子と同じくアジアから1チームであり、今回は開催国の中国に出場権が与えられるため、中国が優勝した場合には第2位のチームに出場権が与えられ、中国が優勝しなかった場合には優勝チームに出場権が与えられる。

また、出場権を得られなかった場合は、来年開催される世界予選に出場して残された3チームの出場枠を争うが、この世界予選に出場できるのは今回のアジア選手権大会の成績による上位2チームのみであり、いずれにしてもオリンピック出場権を獲得するのは容易なことではない。

オリンピック世界予選の各大陸からの出場枠は、ヨーロッパ4、アメリカ3、アフリカ2、アジア2、オセアニア1の計12チームとなっている。

日本男子のオリンピック出場は1976年のモントリオール大会以来途絶えており、30年振りの出場権獲得に期待がかかる。

この夏は大挙して徳島へ出かけて日本代表チームを応援し、何が何でもオリンピック出場権を勝ち取りたいものだ。

日本代表チームは、ヨーロッパ遠征を含む数次の強化合宿で鍛えられており、最終的な候補選手は以下の12名となっている。

[選 手]

No	氏 名	P	身長	体 重	年齢	所 属
4	川村 卓也	SG	191	80	20	オーエスジー
5	山田 大治	PF	200	105	25	パナソニック
6	桜井 良太	SG	194	73	23	北海道カムイ
7	佐古 賢一	PG	179	81	36	アイシン精機
8	柏木 真介	PG	183	80	25	アイシン精機
9	折茂 武彦	SG	190	77	36	北海道カムイ
10	竹内 公輔	PF	205	98	22	アイシン精機
11	網野 友雄	SF	196	87	26	アイシン精機
12	五十嵐 圭	PG	180	68	26	日立
13	青野 文彦	C	210	120	28	パナソニック
14	桜木ジェイ アール	CF	203	105	30	アイシン精機
15	竹内 譲次	PF	205	93	22	日立
	平均		195	88	27	

Pーポジション：PGーポイントガード、SGーシューティングガード、SFースモール
フォワード、PFーパワーフォワード、Cーセンター

以上のメンバーのうち10名が2006年に日本で開催された世界選手権大会に出場した選手であり、それ以外でもはじめて代表選手になった選手はいないという、どちらかといえはそれなりの経験を積んだ選手たちで、今回大会で期待ができそうだ。

また今回の注目は、アイシンに在籍するヘンダーソン選手が、先月日本に帰化することが決まり、日本代表選手として出場することだ。ヘンダーソン選手は日本名を桜木として登録するが、かつて1998年～99年にNBAのグリズリーズでプレイしたこともあり、元NBAの選手が日本代表として国際試合に出場するのは初めてのこと。

桜木選手の加入により、ゴール近くのプレイやリバウンドなどで強さを発揮できることはもとより、新たに就任した鈴木貴美一ヘッドコーチ（アイシン精機）の緻密な采配振りが注目される。アシスタントコーチの田中輝明（東芝）氏とともに、日本代表チームのレベルアップを図ってアジア選手権大会優勝の夢をかなえてくれることを大いに期待したい。

〔組合せと試合日程〕

大会への出場国と第1次予選ラウンドの組合せは次のとおり。

グループA	グループB	グループC	グループD
中国	レバノン	カタール	韓国
ヨルダン	クウェート	インド	ホンコン・チャイナ
イラン	アラブ首長国連邦	カザフスタン	シリア
フィリピン	日本	インドネシア	チャイニーズ・タイペイ

第1次予選ラウンド試合日程

日程	時間	会場	グループ	対戦カード	
7/28 (土)	9:00	1	C	カタール	vs インド
	11:15	1	A	中国	vs ヨルダン
	13:30	1	D	シリア	vs チャイニーズ・タイペイ
	15:45	1	B	アラブ首長国連邦	vs 日本
	18:00	1	A	イラン	vs フィリピン
	20:15	1	B	レバノン	vs クウェート
	9:00	2	C	カザフスタン	vs インドネシア
	11:15	2	D	韓国	vs ホンコン・チャイナ
7/29 (日)	9:00	1	D	ホンコン・チャイナ	vs シリア
	11:15	1	C	インドネシア	vs カタール
	13:30	1	D	チャイニーズ・タイペイ	vs 韓国
	15:45	1	B	日本	vs レバノン
	18:00	1	A	フィリピン	vs 中国
	20:15	1	A	ヨルダン	vs イラン
	9:00	2	C	インド	vs カザフスタン
	11:15	2	B	クウェート	vs アラブ首長国連邦
7/30 (月)	9:00	1	B	アラブ首長国連邦	vs レバノン
	11:15	1	D	チャイニーズ・タイペイ	vs ホンコン・チャイナ
	13:30	1	C	カザフスタン	vs カタール
	15:45	1	A	イラン	vs 中国
	18:00	1	A	フィリピン	vs ヨルダン
	20:15	1	B	日本	vs クウェート
	9:00	2	C	インドネシア	vs インド
	11:15	2	D	シリア	vs 韓国

会場 1ーアスティとくしま / 会場 2ー徳島市立体育館

第2次予選ラウンド

第2次予選ラウンドは、第1次予選ラウンド各グループの上位2チーム、合計8チームを2グループに分けてグループ毎に総当たりリーグ戦を行い、各グループ上位2チーム、合計4チームが決勝トーナメントへ進出する。

第1次予選ラウンド各グループの下位2チーム、合計8チームは2グループに分けて下位リーグを戦う。

上位リーグのグループ分け

グループ I	グループ II
A 1 位	A 2 位
B 2 位	B 1 位
C 1 位	C 2 位
D 2 位	D 1 位

それぞれのグループで総当たりリーグ戦を行い上位2チームが決勝トーナメントへ進出。

上位リーグ試合日程

上位リーグ戦は、7月31日、8月1日、8月2日の3日間、第1次予選ラウンドと同様の時間帯で、予選ラウンドと同じ会場で開催される。

決勝トーナメント

第2次予選ラウンドの上位2チームづつが8月3日の休息日の後、8月4日に準決勝を行い、8月5日に決勝戦を行なう。8月4日の準決勝は「アスティとくやま」で18時と20時15分から開催、8月5日は3位決定戦が18時から、決勝戦は20時15分からそれぞれ行なわれる。

以上のような日程で北京オリンピックへの出場権が争われるが、予選リーグは連続6日間のハードスケジュールであり、季節的にもかなりの体力が必要になる。

また、決勝トーナメントに進出したとすると1日において更に2日間の連続試合となり、優勝するには大変な体力と精神力を持続しなければならないことはいうまでもない。

日本代表チームの選手とスタッフの皆さんが、この難関を乗り越えて是が非でも北京オリンピックの出場権を獲得していただきたいものである。そのことこそが日本バスケットボールの発展とメジャー化への近道ではないだろうか。

日本代表チームの健闘を願うとともに、私たちにできる積極的な「応援」を多くのバスケットボール関係者、ファンにお願いしたい。



日本代表チームの選手たち

日本代表チームオリンピック史

[歴史部]

北京オリンピック予選が開かれる今、かつて日本を代表するスタッフや選手たちが出場したオリンピックの歴史をまとめてみた。近年では女子の活躍が目立つが男子についても堂々とアジアの枠を勝ち取って、オリンピックに出場していた輝かしい記録でもある。

年齢は出場時年令

回数	開催年	開催地(国)	性別	参加国数・順位															
11	1936	ベルリン (ドイツ)	男	1932年国際バスケットボール連盟が結成され、男子バスケットボール競技がオリンピックの正式種目になる 21カ国 1位アメリカ 2位カナダ 3位メキシコ 9～14位グループ日本															
					○	日	本		35	—	19		中国						
					○	日	本		43	—	31		ポーランド						
					●	日	本		22	—	28		メキシコ						
	代表団	氏名	年令	出身校⇒所属										身長					
	監督	浅野 延秋		早稲田大卒															
	コーチ	三橋 誠		京都帝國大 卒															
	審判	李 相白		早稲田大卒															
	マネジャー 兼審判	竹崎 道雄		早稲田大卒															
	役員	高橋 太郎																	
	主将	田中秀次郎	27	東京帝國大 卒										180					
	選手	鹿子木健日子	23	東京帝國大										192					
	"	張 利鎮	21	延禧専門学校										182					
	"	中江 孝男	24	東京帝國大										185					
	"	前田 昌保	23	立教大 卒										167					
	"	松井 聡	22	京都帝國大										176					
	"	宗像 卯一	21	早稲田大										173					
	"	横山 堅七	21	新潟商業⇒早稲田大										173					
	"	吉井 精三郎	20	新潟師範⇒東京高等師範										173					
	"	李 性求	26	延禧専門学校 卒										173					
	"	廉 殷鉉	24	延禧専門学校										182					
回数	開催年	開催地(国)	性別	参加国数・順位															
16	1956	メルボルン (オーストラリア)	男	15カ国 1位アメリカ 2位ソビエト 3位ウルグアイ 10位日本															
					●	日	本		40	—	98		アメリカ						
					●	日	本		61	—	77		フィリピン						
					○	日	本		70	—	50		タイ						
					●	日	本		60	—	73		カナダ						
					○	日	本		83	—	67		韓国						
		○	日	本		82	—	61		台湾									

				● 日 本	60	—	75		カナダ			
	代表団	氏名	年令	出身校⇒所属					身長			
	監 督	大庭 哲夫		早稲田大⇒日本航空								
	コーチ	前田 昌保		立教大⇒東邦ワラパルプ								
	審 判	佐々木 茂		東京高等師範⇒								
	主 将	糸山 隆司	24	東京教育大⇒日本鋼管					195			
	選 手	藤田 学		明治大⇒日本鋼管								
	"	杉山 武雄	23	立教大⇒八幡製鐵					176			
	"	荒井 利一		立教大⇒松下電器								
	"	斉藤 博	22	立教大⇒日本鋳業					184			
	"	東海林周太郎	22	山形東高⇒立教大					170			
	"	紺野 仁	23	立教大⇒鉄興社					186			
	"	登坂 哲朗	23	北園高⇒慶應義塾大					179			
	"	今泉 健一	22	明治大⇒日本鋳業					183			
	"	大平 礼三	21	磐城高⇒明治大					186			
	"	奈良 節雄	19	川崎高⇒立教大					177			

回数	開催年	開催地(国)	性別	参加国数・順位								
17	1960	ローマ (イタリア)	男	16カ国 1位アメリカ 2位ソビエト 3位ブラジル 15位日本								
				● 日 本	66	—	73		ハンガリー			
				● 日 本	66	—	12	5	アメリカ			
				● 日 本	92	—	10	0	イタリア			
				● 日 本	63	—	10	1	フランス			
				● 日 本	57	—	76		メキシコ			
				● 日 本	64	—	66		スペイン			
				● 日 本	73	—	93		プエルトリコ			

	代表団	氏名	年令	出身校⇒所属					身長			
	監 督	森沢 誠一		早稲田大⇒日本システム工業								
	コーチ	前田 昌保		立教大⇒東邦ワラパルプ								
	審 判	畑 竜雄		東京大⇒武蔵大								
	主 将	糸山 隆司	27	東京教育大⇒日本鋼管					195			
	選 手	斉藤 博	26	立教大⇒日本鋳業					184			
	"	杉山 武雄	27	立教大⇒八幡製鐵					176			
	"	東海林周太郎	26	立教大⇒日本鋳業					170			
	"	今泉 健一	26	明治大⇒日本鋳業					183			
	"	鎌田 正司	25	早稲田大⇒日本鋼管					180			
	"	奈良 節雄	23	立教大⇒日本鋳業					177			
	"	金川 英雄	23	立教大⇒八幡製鐵					181			
	"	若林 薫	21	北野高⇒東京教育大					178			
	"	大島 康邦	21	新潟南高⇒立教大					174			
	"	志賀 政司	21	磐城高⇒明治大					175			

回数	開催年	開催地(国)	性別	参加国数・順位								
18	1964	東京 (日本)	男	16カ国 1位アメリカ 2位ソビエト 3位ブラジル 10位日本								

				●	日 本		55	—	65		プエルト・リコ		
				●	日 本		57	—	81		ポーランド		
				○	日 本		58	—	37		カナダ		
				○	日 本		58	—	41		ハンガリー		
				●	日 本		59	—	72		ソビエト		
				○	日 本		72	—	68		イタリー		
				●	日 本		62	—	64		メキシコ		
				○	日 本		54	—	45		フィンランド		
				●	日 本		57	—	64		オーストラリア		
	代表団	氏名	年令	出身校⇒所属						身長			
	総監督	牧山 圭秀		早稲田大卒									
	監督	吉井 四郎		東京高等師範⇒一橋大									
	コーチ	斉藤 博		立教大⇒日本鉱業									
	〃	武富 邦中		慶應義塾大⇒三井生命									
	審判	古川 幸慶	東京大⇒	杲田 吾一郎		大阪商業大⇒							
	〃	名越 定	西野田高⇒	南波 道雄		京都師範⇒							
	〃	山戸 英夫	青山師範⇒	小野 雄三		岡山医科大⇒							
	〃	河合 武	東京大⇒	香中 亮一		早稲田大⇒							
	〃	藤堂 匡令	明治大⇒	桂 正之		東京大							
	〃	展 匡一郎	明治大⇒	瀬川 利広		堀川高							
	〃	松尾 武司	東京教育大⇒	秋里 瑞穂		大阪商業大⇒							
	〃	堀本 宏	東京教育大⇒	細川 磐		東京教育大⇒							
	主将	奈良 節雄	27	立教大⇒日本鉱業						177			
	選手	若林 薫	26	東京教育大⇒日本鋼管						178			
	〃	志賀 政司	25	明治大⇒日本鉱業						176			
	〃	中村 邦彦	24	明治学院大⇒日本鉱業						188			
	〃	増田 貴史	24	慶應義塾大⇒住友金属						183			
	〃	梅 勝夫	23	立教大⇒積水化学						182			
	〃	藤江 精二	23	日本大⇒三井生命						191			
	〃	海保 宣生	22	立教大⇒住友金属						168			
	〃	江川 嘉孝	21	中央大附属高⇒明治大						183			
	〃	諸山 文彦	21	桑名高⇒日本大						186			
	〃	角田 勝次	20	高崎工業高⇒明治大						196			
	〃	小玉 晃	20	逗子開成高⇒東京教育大						197			
回数	開催年	開催地(国)	性別	参加国数・順位									
20	1972	ミュンヘン (西ドイツ)	男	16カ国 1位ソビエト 2位アメリカ 3位キューバ 14位日本									
				●	日 本		55	—	110		ブラジル		
				○	日 本		78	—	73		エジプト		
				●	日 本		76	—	92		オーストラリア		
				●	日 本		78	—	87		スペイン		
				●	日 本		63	—	108		キューバ		
				●	日 本		33	—	99		アメリカ		
				○	日 本		70	—	67		セネガル		

				● 日 本	73	—	82		フィリピン				
	代表団	氏名	年令	出身校⇒所属				身長					
	監 督	笠原 成元		東京教育大⇒学習院大									
	コーチ	吉田 正彦		立教大⇒日本鋼管									
	審 判	滝島 幸雄		新宿高⇒									
	主 将	谷口 正朋	26	中央大⇒日本鋼管				186					
	選 手	杉田 勝彦	26	大阪商業大⇒松下電器				186					
	"	横山 邦彦	25	早稲田大⇒住友金属				197					
	"	阿部 成章	24	日本体育大⇒日本鋳業				177					
	"	宗田 研二	24	中央大⇒日本鋼管				193					
	"	服部 信雄	24	立教大⇒日本鋼管				197					
	"	吉川 峰夫	24	芝浦工業大⇒住友金属				178					
	"	坂井 和史	24	東京教育大⇒日本鋼管				183					
	"	千種 信雄	26	大阪商業大⇒住友金属				187					
	"	森 哲	23	明治大⇒住友金属				190					
	"	杉友 厚	23	日本大⇒住友金属				185					
	"	沼田 宏文	20	加古川東高⇒同志社大				204					

回数	開催年	開催地(国)	性別	参加国数・順位									
21	1976	モントリオール (カナダ)	男	12カ国 1位アメリカ 2位ユーゴスラビア 3位ソ連 11位日本									
				● 日 本	76	—	10	4	カナダ				
				● 日 本	90	—	10	8	メキシコ				
				● 日 本	56	—	9	7	キューバ				
				● 日 本	63	—	12	9	ソビエト				
				● 日 本	79	—	11	7	オーストラリア				
				● 日 本	91	—	11	1	プエルトリコ				
				○ 日 本	2	—	0		エジプト				
	代表団	氏名	年令	出身校⇒所属				身長					
	監 督	吉田 正彦		立教大⇒日本鋼管									
	コーチ	江川 嘉孝		明治大⇒新日本製鐵									
	審 判	香中 亮一		早稲田大⇒村田合同									
	主 将	阿部 成章	29	日本体育大⇒日本鋳業				178					
	選 手	千種 信雄	31	大阪商業大⇒住友金属				187					
	"	森 哲	27	明治大⇒住友金属				190					
	"	結城 昭二	25	中央大⇒住友金属				184					
	"	藤本 裕	25	大阪商業大⇒日本鋼管				177					
	"	沼田 宏文	24	同志社大⇒松下電器				204					
	"	桑田 健秀	23	慶應義塾大⇒日本鋼管				190					
	"	山本 浩二	23	明治大⇒日本鋼管				175					
	"	清水 茂人	23	中京大⇒日本鋼管				197					
	"	斎藤 文夫	23	中央大⇒松下電器				202					
	"	北原 憲彦	22	明大中野高⇒明治大				201					
	"	浜口 秀樹	20	長崎南高⇒拓殖大				195					

回数	開催年	開催地(国)	性別	参加国数・順位									
----	-----	--------	----	---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

21	1976	モントリオール (カナダ)	女	女子バスケットボール競技が正式種目になる 6カ国 1位ソ連 2位アメリカ 3位ブルガリア 5位日本									
				○	日 本		84	—	71		アメリカ		
				○	日 本		121	—	89		カナダ		
				●	日 本		62	—	76		チェコスロバキア		
				●	日 本		63	—	66		ブルガリア		
				●	日 本		75	—	98		ソビエト		
	代表団	氏名	年齢	出身校⇒所属						身長			
	監督	尾崎 正敏		早稲田大⇒ユニチカ山崎									
	コーチ	石川 武		日本体育大⇒日本体育大									
	主将	脇田代 喜美	25	宮崎高⇒ユニチカ山崎						176			
	選手	橋本 きみ子	23	千葉商業高⇒第一勧銀						166			
	"	門屋 加寿子	22	聖カタリナ女高⇒ユニチカ山崎						176			
	"	福井 美恵子	19	樟蔭東高⇒ユニチカ山崎						184			
	"	大塚 宮子	23	市邨短大⇒日立戸塚						170			
	"	松岡 美保	23	薫英高⇒ユニチカ山崎						165			
	"	林田 和代	22	飯塚女子高⇒日立戸塚						170			
	"	宮本 輝子	24	松橋高⇒ユニチカ山崎						165			
	"	生井 けい子	24	日本体育大⇒日本体育大						163			
	"	青沼 令子	22	清泉女学院高⇒ユニチカ山崎						181			
	"	山本 幸代	25	夙川学院高⇒ユニチカ山崎						167			
	"	佐竹 美佐子	25	妻高⇒第一勧銀						178			
回数	開催年	開催地(国)	性別	参加国数・順位									
26	1996	アトランタ (アメリカ)	女	12カ国 1位アメリカ 2位ブラジル 3位オーストラリア 7位日本									
				●	日 本		63	—	73		ロシア		
				○	日 本		75	—	72		セネガル		
				●	日 本		80	—	100		ブラジル		
				●	日 本		52	—	66		イタリア		
				○	日 本		95	—	85		カナダ		
				●	日 本		93	—	108		アメリカ		
				●	日 本		69	—	80		ロシア		
				○	日 本		81	—	69		イタリア		
	代表団	氏名	年齢	出身校⇒所属						身長			
	チーム リーダー	安達 宣郎		東京教育大⇒三井生命									
	監督	中川 文一		東京教育大⇒シャンソン化粧品									
	コーチ	小牟禮 育夫		福岡教育大⇒積水化学									
	"	永井 祥剛		専修大⇒日本電装									
	総務	地原 礼子		⇒シャンソン化粧品									
	トレーナー	津田 清美		⇒ゴールドウインスポーツサポート									
	審判	石田 秀敏		東京教育大⇒氷取沢高									
	主将	原田 裕花	28	藤蔭高⇒ジャパンエナジー						171			
	選手	一乗 アキ	26	広島商業高⇒シャンソン化粧品						180			
	"	村上 睦子	25	星城高⇒シャンソン化粧品						165			
	"	大山 妙子	22	東亜学園高⇒ジャパンエナジー						173			

	"	萩原 美樹子	26	福島女子高⇒ジャパンエナジー	180						
	"	参河 紀久子	28	明德商業高⇒ジャパンエナジー	170						
	"	山田 かがり	24	名古屋短大付高⇒シャンソン化粧品	178						
	"	加藤 貴子	25	富岡高⇒シャンソン化粧品	180						
	"	岡里 明美	21	名古屋短大付高⇒シャンソン化粧品	180						
	"	川崎 真由美	23	水海道第二高⇒ジャパンエナジー	183						
	"	永田 睦子	19	純心女子高⇒シャンソン化粧品	178						
	"	濱口 典子	22	鶴鳴女子高⇒ジャパンエナジー	183						
回数	開催年	開催地(国)	性別	参加国数・順位							
28	2004	アテネ (ギリシャ)	女	12カ国 1位アメリカ 2位オーストラリア 3位ロシア 10位日本							
				●	日 本	62	—	12	8	ブラジル	
				○	日 本	79	—	73		ナイジェリア	
				●	日 本	78	—	97		オーストラリア	
				●	日 本	71	—	94		ロシア	
				●	日 本	91	—	93		ギリシャ	
				●	日 本	63	—	82		中国	
	代表団	氏名	年令	出身校⇒所属				身長			
	監督	内海 知秀		日本体育大⇒JOMO							
	コーチ	梅寄 英毅		日本大⇒日立ハイテクノロジーズ							
	"	萩原 美樹子		福島女子高⇒早稲田大大学院							
	総務	高橋 雅弘		⇒JOMO							
	トレーナー	伊藤 美子		⇒田淵整形外科クリニック							
	"	海老原 一哉		⇒スポーツケア鍼灸スポーツマッサージ治療							
	スーパーバイザー	原 拓男		⇒日本バスケットボール協会							
	審判	須黒 洋子		日本体育大⇒							
	主将	濱口 典子	30	鶴鳴女子高⇒JOMO				183			
	選手	紺野 麻里	24	明星学園高⇒JOMO				178			
	"	大山 妙子	30	東亜学園高⇒JOMO				173			
	"	薮内 夏美	27	樟蔭東女子短大⇒日本航空 インターナショナル				175			
	"	川畑 宏美	25	福井商業高⇒JOMO				181			
	"	楠田 香穂里	30	小林高⇒JOMO				165			
	"	矢野 良子	25	城北高⇒JOMO				178			
	"	江口 真紀	25	九州女学院高⇒シャンソン化粧品				184			
	"	立川 真紗美	23	横須賀商業高⇒JOMO				171			
	"	大神 雄子	21	桜花学園高⇒JOMO				170			
	"	矢代 直美	26	日本体育大⇒日本航空 インターナショナル				182			
	"	永田 睦子	27	純心女子高⇒シャンソン化粧品				178			

REUSE を考える [環境の総合情報商社]

“地球にやさしく” どこかで見たような聞いたような言葉。

あなたはリサイクルに関心を持っていますか？

“地球環境をこれ以上汚したくない” これが私たちの願いであるとともに、人類に課せられた大きな課題です。

当社は携帯電話やパソコンなど、鉄を除いた金属（レアメタル）の回収、再生（リサイクル）を主な業務にしている会社です。

日本のバスケットボールの振興、発展を応援します。

リユース・ビズテック 株式会社

〒333-0842

埼玉県川口市前川2-33-1

TEL 048-263-7023

FAX 048-269-8009

代表取締役 永野 鉄洋

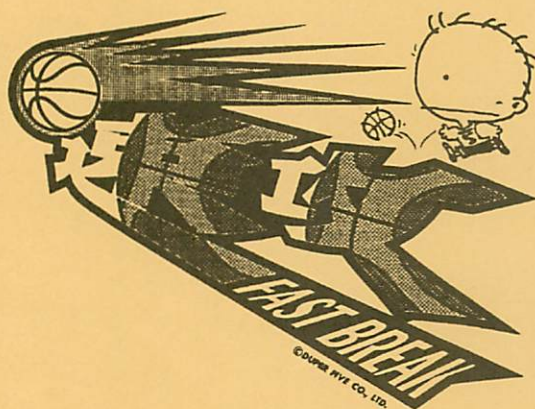


**TEAM
WORK**

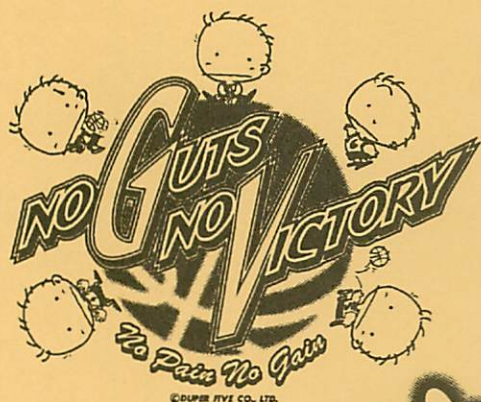
ONE for ALL ALL for ONE

©DUPER FIVE CO., LTD.

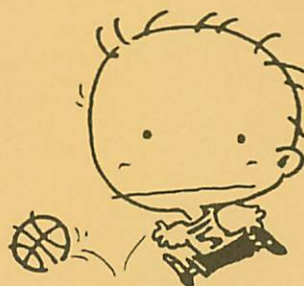
3 SUPER 5



**DEFENSE
FOOTWORK**



©DUPER FIVE CO., LTD.

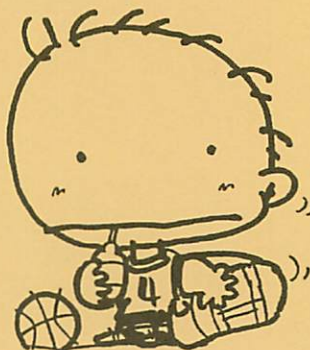
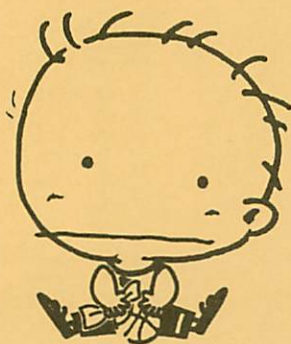


DUPER.

表現の自由人。



文武両道



DUPER.

URL : <http://www.duper.co.jp>

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-3-5
TEL . (03)3632-7045 (代表)
FAX . (03)3632-8327

E-mail: info@duper.co.jp